

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成30年5月1日※1
(前回公表年月日:平成29年5月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																											
岩谷学園アーティスティック B横浜美容専門学校		平成16年1月9日		鈴木 政信		〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-38-13 岩谷学園7号館 (電話) 045-290-7090																											
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																											
学校法人岩谷学園		昭和46年12月1日		理事長 岩谷 大介		〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-38-19 岩谷学園5号館 (電話) 045-321-4414																											
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																										
衛生	衛生専門課程	ビューティースタ일리スト科				平成20年文部科学省 告示第11号	-																										
学科の目的	企業その他関係機関との連携の下、美容分野における実務に関する知識・技術及び技能を教授し、またビジネスとして美容界で活躍できる職業人に必要な実践的かつ専門的能力を育成することを目的とする																																
認定年月日	平成26年3月31日																																
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																										
2年	昼間	2,010時間	600時間	180時間	1,230時間	0時間	0時間																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																												
80人	57人	0人	3人	9人	12人																												
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 5段階評価(秀・優・良・可・不可)																												
長期休み	■学年始:4月1日～4月5日 ■夏季:8月10日～8月20日 ■冬季:12月25日～翌年1月4日 ■学年末:3月25日～3月31日			卒業・進級条件	■進級条件:1,020時間(平成29年度入学生) 950時間(平成30年度入学生)を履修し、 学科・実技試験60点以上 ■卒業条件:学則第17条による																												
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への電話連絡と自宅訪問等による面談の実施			課外活動	■課外活動の種類 校外研修 海外研修 ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																												
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 美容サロン、ブライダル関係 ■就職指導内容 個別進路相談、職業人講和、学内企業説明会、企業インターンシップへの参加、合同説明会・就職フェアへの参加 ■卒業生数 14 人 ■就職希望者数 13 人 ■就職者数 13 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 92.9 % ■その他 (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美容師国家試験</td> <td>②</td> <td>14人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>ネイリスト技能検定試験3級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラー検定3級</td> <td>③</td> <td>35人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>パーマ検定</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	美容師国家試験	②	14人	13人	ネイリスト技能検定試験3級	③	9人	9人	パーソナルカラー検定3級	③	35人	24人	パーマ検定	③	18人	16人	ビジネス能力検定3級	③	7人	5人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																														
美容師国家試験	②	14人	13人																														
ネイリスト技能検定試験3級	③	9人	9人																														
パーソナルカラー検定3級	③	35人	24人																														
パーマ検定	③	18人	16人																														
ビジネス能力検定3級	③	7人	5人																														

中途退学 の現状	<p>■中途退学者 7 名 ■中退率 12.3 %</p> <p>平成29年4月1日時点において、在学者57名（平成29年4月1日入学者を含む） 平成30年3月31日時点において、在学者50名（平成30年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 方向性の違いからの進路転換、傷病等</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 ①クラス担任が学生とのカウンセリングの機会を定期的に持つことにより、学習状況のみならず体調管理等の生活指導も行っている。 ②学生の学習状況や活動状況等の情報共有を目的とし、キャリアセンターのキャリアカウンセラーも同席のもと、月1回の学生指導会議を開催。関わる教職員全員が共通理解の下、学生をサポートできる環境を整えている。 ③心理カウンセラー資格者（学園内）によるカウンセリング体制を確立している。</p>
経済的支援 制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 家族入学奨学制度、岩谷学園校友会奨学制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p>
第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p>
当該学科の ホームページ URL	<p>https://www.artisticb.ac.jp</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①時代の変化に適應できる人材を育成するため、連携企業と情報交換を行い、即戦力となる教育内容を教育カリキュラムに反映させる。
 - ②企業が持つ最先端の技術や知識を身につけ、教員のスキルアップを図る研修計画と実施。
 - ③サービス業に携わる人材として、身に付けるべき接客マナーレベルとビジネスマインドを知る機会とする。
- 以上の3点を目的に、教育課程編成委員会を実施し、企業からの意見を参考にカリキュラム等の見直しを行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

実践的、専門的な教育課程を編成するため、企業等との連携体制を確保し、カリキュラムに反映させ実施する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
大沼 孝三	一般財団法人ウェーブジャパン 理事長		①
井上 豊彦	有限会社Iepe 代表取締役会長		①
鈴木 政信	岩谷学園アーティストックB横浜美容専門学校 校長		
石崎 淳子	岩谷学園アーティストックB横浜美容専門学校 教務主任		
阿部 和文	岩谷学園アーティストックB横浜美容専門学校		
宮田 具	岩谷学園アーティストックB横浜美容専門学校		
古谷 聖子	岩谷学園アーティストックB横浜美容専門学校		
石井 紀代子	学校法人岩谷学園 統合事務局 副部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成30年 6月15日(金) 16:00～18:00

第2回 平成30年 11月16日(金) 16:00～18:00(実施予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

わかりやすい教材の研究と作成を行う

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ビジネス実践Ⅱ	・ビジネス実践Ⅰ(前期)において実施したビジネスメソッドを実践の中で体験し身につける。 ・企業連携先での実践実習を通じて、サロンワークを身につける。	SICグループ/株式会社ケンジ/株式会社アッシュ/株式会社エイエフシー/株式会社アイ・ビー・シー/株式会社bless/有限会社リンクス他
高度美容技術Ⅱ	・最新のメイクアップ技術とメイクアップ商品を学ぶ。 ・サロンで活用できるヘッドスパの基礎知識と技術を習得する。 ・美容の鉄の材質や特性を学び、手入れの仕方を習得する。 ・毛髪や薬剤の基礎知識を学び、パーマ技術の向上を図る。	有限会社ゆき美容室/株式会社きくや美粧堂/株式会社内海/ウェブジャパン
高度美容技術Ⅲ	・カラーリングの基礎や薬剤の性質を理解し、実践的なカラー塗布技術を学ぶ。 ・エステティック技術の最先端を知る。	株式会社きくや美粧堂/株式会社ラ・ポータ・アクアボン
高度美容技術Ⅳ	・新日本髪の商品制作を通して日本の伝統的な文化に触れ、各部の名称や道具について学ぶ。	株式会社きくや美粧堂
着付け実習	・着付けの基礎基本を理解し、美容業で活かせるようにする。 ・冠婚葬祭を中心に、特に振袖の着付けや帯結びを身につける。 ・和装小物と着物のTPOに関わる種類と名称を理解し、正しい扱いと保管などができるようにする。	有限会社サロン・ド・ポータ・グレース

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

時代・社会・教育環境の変化に適応でき、個性豊かな学生を指導できる教員を要請すべく体系的にかつ計画的に、そして積極的に研修に取り組む。

学校で定めた研修規程に従い、各種研修実施計画を策定するとともに、連携企業の協力も求め、教員に対して研修等に参加する機会を平等かつ積極的に与え、自己啓発および自己研鑽に向けた意欲を高めてもらう。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成29年10月6日～7日 関東地区理容師美容師養成施設教職員研修会

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・平成29年8月1日
- ・平成29年12月27日 アクティブラーニング・アサーション

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成29年8月27日 河野富広による「the study of new head design」
- ・平成29年9月19日 AJESTHE講習会(セラピストなら知っておきたい解剖生理学)
- ・平成29年10月27日 第18会アロマサイエンスフォーラム2017(香で若返りはどこまで可能か)
- ・平成29年11月19日 AJESTHEスキルアップ研修会座学編Ⅱ
- ・平成29年10月6日～7日 関東地区理容師美容師養成施設教職員研修協議会

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・平成29年4月16日 産業カウンセラー資格養成講座
- ・平成29年4月21日 関東地区理容師美容師養成施設教職員研修協議会:幹事会・基調講演
- ・平成29年5月26日 「現代の若者とどう向き合うか」(発達障害傾向の学生支援)
- ・平成29年6月20日 サロン用実践Instagramに♡がつく!! フォトが映えるフィニッシュワークとフォトテクニック
- ・平成29年8月2日 肖像権について
- ・平成29年8月4日 アクティブラーニングの実践と学習評価
- ・平成29年12月26日 アサーションスキル

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校が行った自己評価の結果を踏まえ、評価が適切であるかを評価し、学校運営の改善を図る

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校側が課題として挙げている退学率の低減や国家試験合格率向上へは、学生一人一人のサポート・ケアなどアドバイスをいただいたことを実践

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
遠藤 順子	保護者		保護者
斉藤 愛美	卒業生		卒業生
岩田 直樹	PRIDE.RIZE代表取締役		企業
鈴木 弘文	平沼 田中屋		地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:<https://www.artisticb.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の学校運営や教育活動に関する情報提供を行い、関係者の理解を深める

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要
(2) 各学科等の教育	ビューティースタylist科の教育内容
(3) 教職員	組織および教職員の状況
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務状況
(9) 学校評価	学校自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<https://www.artisticb.ac.jp/>

授業科目等の概要

(衛生専門課程 ビューティースタylist科)平成29年度入学生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			関係法規・制度	・美容師の業務に関係する衛生法規・制度および消費者保護法規・制度について正しい知識を習得する。 ・公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理について自覚を身に付ける。 ・美容の業務に関する規程内容を正確に理解する。 ・衛生法規が美容業の指針として有する意義を理解する。	1前	30		○			○			○	
○			衛生管理Ⅰ	・公衆衛生とは何かを理解し、美容師が担う公衆衛生の基本的な業務について知る。	1後	30		○			○				
○			美容保健Ⅰ・Ⅱ	・美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する基本的な知識を習得する。	1通	60		○			○			○	
○			美容の物理・化学Ⅰ	・美容の業務を安全かつ効率的に行うために必要な科学的知識を身に付ける。 ・美容器具が合理的思考に裏付けられていることを理解したうえで、その器具の適正な取り扱いができるようにする。	1後	30		○			○				
○			美容文化論Ⅰ・Ⅱ	・美容業の使命である優れた人間美の創造と実現のために必要な美的感覚を身につけ、これを洗練し、芸術的な観賞力を磨く。	1通	60		○			○			○	
○			美容技術理論Ⅰ・Ⅱ	・美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業に即して習熟する。 ・優れた美容技術は、科学的かつ合理的な方法に基づいていることを理解する。	1通	60		○			○		○		
○			美容運営管理Ⅰ・Ⅱ	・経営管理の基本的事項を学習することにより、美容業における経営管理手法の重要性を認識する。 ・サロンにおける適切な接客態度、顧客対応の基本を学び、実践能力を身に付ける。	1通	60		○			○			○	
○			美容実習Ⅰ・Ⅱ	・美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得することを目的に、基本的操作を確実に身に付ける。 ・衛生管理の重要性、器具の消毒などの実施方法を身に付ける。 ・お客様の要望に応じた美容技術を提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付ける。	1通	360					○	○		○	
○			情報技術Ⅰ・Ⅱ	・情報ツールとしてのパソコンの基本的な操作を身に付ける。 ・日常業務で使用が見込まれるWord、Excelといったofficeツールの他に、広報用として使用が見込まれるプレゼンテーションツールについても使用方法を学び、トータル的に表現する力を身に付ける。	1通	60		○			○			○	

(衛生専門課程 ビューティースタylist科)平成29年度入学生

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		芸術Ⅰ・Ⅱ	・優れた芸術作品に親しみ、鑑賞することにより、感性を磨く。 ・芸術の歴史を通じて芸術が個人や社会にもたらす影響について学ばせるとともに、現代芸術の主な潮流について知る。	1通	60			○		○			○	
	○		ビジネス実践Ⅰ・Ⅱ	・ビジネス実践Ⅰ(前期)においては、ビジネスメソッドを学習し、学校の学びの中で実践し、効果的に活用しながら学習効果を自律的にあげることができるようにする。 ・ビジネス実践Ⅱ(後期)においては、企業連携先での実践実習を通じてサロンワークを身に付ける。	1通	60				○	○		○		
	○		高度美容技術Ⅰ・Ⅱ	・美容モードを始めとする、将来に必要なトータル美容技術と感性を磨く。 ・ヘアメイクの総合的な基本技術習得のほか、エステティックでは心身の健康と美の必要性、ネイルでは指先のケアを中心にアートの基本技術を学ぶ。	1通	90				○	○		○		
	○		美容総合運営Ⅰ・Ⅱ	・クラス目標の設定や各イベントをPDCAサイクルに沿って体験することで、問題形成・改善力を身に付ける。 ・イベントを知的財産とするためにポートフォリオを作成する。	1通	60				○		○		○	
	○		衛生管理Ⅱ・Ⅲ	・公衆衛生の意義と本質を明らかにし、美容師が公衆衛生の維持と増進について重大な責務を負うことを理解する。 ・美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の重要性について理解する。	2通	60			○			○			○
	○		美容保健Ⅲ・Ⅳ	・美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学、系統的な応用知識を習得する。 ・皮膚・毛髪などに関する正確な科学的知識を理解する。	2通	60			○			○			○
	○		美容の物理・化学Ⅱ・Ⅲ	・化粧品の科学的な性質を理解するとともに、使用における正確な知識と技術を身につける。	2通	60			○			○			○
	○		美容文化論Ⅲ	・美容文化論Ⅰ・Ⅱで培った鑑賞力を基礎とし、美容の業務を全うする豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を身に付ける。	2前	30			○			○			○
	○		美容技術理論Ⅲ・Ⅳ	・美容技術についての知識を衛生的・能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力を身に付ける。	2通	60			○			○		○	
	○		美容実習Ⅲ・Ⅳ	・美容実習Ⅰ・Ⅱで身に付けた技術を適宜組み合わせ合わせて完成させる技術を習得する。 ・お客様の要望を汲み取り、満足度を提供できる総合的な美容技術を身に付ける。	2通	450					○	○		○	

(衛生専門課程 ビューティースタylist科)平成29年度入学生

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			高度美容技術Ⅲ・Ⅳ	・トータルビューティーに必要なサロンワークを中心に、実践的な知識・技能を習得する。 ・ヘッドスパやヘアカラーリング、ストレートパーマを始め、ブライダル関連の実践を中心に学ぶ。 ・ヘアとメイク作品撮影に関する総合的な体験を重ね、自己のクリエイターとしての愉しさを学ぶ。 ・まつ毛エクステーションの基礎的技術を学ぶ。	2通	120				○	○			○		
○			ビジネス実践Ⅲ・Ⅳ	・自己のキャリアディベロップメントについての考えを深め、実現のために必要なビジネスマインドを養成する。 ・美容業に求められる能力と資質を十分に理解し、自己啓発の方法について考え、実践できるようにする。	2通	60					○	○		○		
○			着付け実習	・着付けの基礎基本を理解し、美容業に活かせるようにする。 ・冠婚葬祭を中心に、特に振袖の着付け、帯結びを身に付ける。 ・和装小物と着物のTPOに関わる種類と名称を理解し、正しい扱いと保管などができるようにする。	2前	30					○	○			○	
○			美容総合運営Ⅲ・Ⅳ	・美容業界で活躍するための総合的な力を理解し、企画等のプロデュースから運営ができるようになる。 ・イベントの企画を実際に行い、PDCAサイクルに加え、グループとしての実践力も養う。 ・この活動を知的財産とするためにポートフォリオを作成する。	2通	60				○		○		○		
合計				23科目	2,010単位時間(67単位)											

(衛生専門課程 ビューティースタylist科)平成30年度入学生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			関係法規・制度 I	・美容師の業務に係る衛生法規・制度および消費者保護法規・制度について正しい知識を習得する。 ・公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理について自覚を身に付ける。 ・美容の業務に関する規程内容を正確に理解する。 ・衛生法規が美容業の指針として有する意義を理解する。	1後	20		○			○			○	
○			衛生管理 I・II	・公衆衛生とは何かを理解し、美容師が担う公衆衛生の基本的な業務について知る。	1通	50		○			○			○	
○			保健 I・II	・美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する基本的な知識を習得する。	1通	50		○			○			○	
○			香粧品化学 I	・美容の業務を安全かつ効率的に行うために必要な科学的知識を身に付ける。 ・美容器具が合理的思考に裏付けられていることを理解したうえで、その器具の適正な取り扱いができるようにする。	1後	40		○			○				
○			文化論 I	・美容業の使命である優れた人間美の創造と実現のために必要な美的感覚を身につけ、これを洗練し、芸術的な観賞力を磨く。	1前	40		○			○			○	
○			運営管理 I	・経営管理の基本的事項を学習することにより、美容業における経営管理手法の重要性を認識する。 ・サロンにおける適切な接客態度、顧客対応の基本を学び、実践能力を身に就ける。	1後	20		○			○			○	
○			美容技術理論 I・II	・美容器具の正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業に即して習熟する。 ・優れた美容技術は、科学的かつ合理的な方法に基づいていることを理解する。	1通	90		○			○			○	
○			美容実習 I・II	・美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得することを目的に、基本的操作を確実に身に付ける。 ・衛生管理の重要性、器具の消毒などの実施方法を身に付ける。 ・お客様の要望に応じた美容技術を提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付ける。	1通	390					○	○		○	
	○		芸術 I・II	・優れた芸術作品に親しみ、鑑賞することにより、感性を磨く。 ・芸術の歴史を通じて芸術が個人や社会にもたらす影響について学ばせるとともに、現代芸術の主な潮流について知る。	1通	60			○		○			○	
	○		ビジネス実践 I・II	・ビジネス実践 I (前期)においては、ビジネスメソッドを学習し、学校の学びの中で実践し、効果的に活用しながら学習効果を自律的にあげることができるようにする。 ・ビジネス実践 II (後期)においては、企業連携先での実践実習を通じてサロンワークを身に付ける。	1通	60					○	○	○	○	

(衛生専門課程 ビューティースタylist科)平成30年度入学生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			高度美容技術Ⅰ・Ⅱ	・美容モードを始めとする、将来に必要なトータル美容技術と感性を磨く。 ・ヘアメイクの総合的な基本技術習得のほか、エステティックでは心身の健康と美の必要性、ネイルでは指先のケアを中心にアートの基本技術を学ぶ。	1通	70			○	○		○			
○			美容総合運営Ⅰ・Ⅱ	・クラス目標の設定や各イベントをPDCAサイクルに沿って体験することで、問題形成・改善力を身に付ける。 ・イベントを知的財産とするためにポートフォリオを作成する。	1通	60			○		○		○		
○			関係法規・制度Ⅱ	・美容師の業務に関係する衛生法規・制度および消費者保護法規・制度について正しい知識を習得する。 ・公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理について自覚を身に付ける。 ・美容の業務に関する規程内容を正確に理解する。 ・衛生法規が美容業の指針として有する意義を理解する。	2前	10			○		○			○	
○			衛生管理Ⅲ・Ⅳ	・公衆衛生の意義と本質を明らかにし、美容師が公衆衛生の維持と増進について重大な責務を負うことを理解する。 ・美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の重要性について理解する。	2通	40			○		○				○
○			保健Ⅲ・Ⅳ	・美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学、系統的な応用知識を習得する。 ・皮膚・毛髪などに関する正確な科学的知識を理解する。	2通	40			○		○				○
○			化粧品化学Ⅱ	・化粧品の科学的な性質を理解するとともに、使用における正確な知識と技術を身につける。	2前	20			○		○				○
○			文化論Ⅱ	文化論Ⅰで培った鑑賞力を基礎とし、美容の業務を全うする豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を身に付ける。	2前	20			○		○				○
○			運営管理Ⅱ	・経営管理の基本的事項を学習することにより、美容業における経営管理手法の重要性を認識する。 ・サロンにおける適切な接客態度、顧客対応の基本を学び、実践能力を身に就ける。	2前	10									○
○			美容技術理論Ⅲ・Ⅳ	・美容技術についての知識を衛生的・能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力を身に付ける。	2通	60			○		○		○		
○			美容実習Ⅲ・Ⅳ	・美容実習Ⅰ・Ⅱで身に付けた技術を適宜組み合わせさせて完成させる技術を習得する。 ・お客様の要望を汲み取り、満足度を提供できる総合的な美容技術を身に付ける。	2通	510					○	○		○	
○			ビジネス実践Ⅲ	・自己のキャリア開発についての考えを深め、実現のために必要なビジネスマインドを養成する。 ・美容業に求められる能力と資質を十分に理解し、自己啓発の方法について考え、実践できるようにする。	2前	30					○	○		○	

(衛生専門課程 ビューティースタylist科)平成30年度入学生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		高度美容技術Ⅲ・Ⅳ	・美容モードをはじめとする、将来に必要なトータル美容技術と感性を磨く。 ・ヘアメイクの総合的な基本技術習得のほか、エステティックでは心身の健康と美の必要性、まつ毛エクステンションでは、基礎知識と装着の技術を学ぶ。また、振袖の着付け、帯結びを学ぶ。	2通	230				○	○		○	○	
	○		美容総合運営Ⅲ・Ⅳ	・美容業界で活躍するための総合的な力を理解し、企画等のプロデュースから運営ができるようになる。 ・イベントの企画を実際に行い、PDCAサイクルに加え、グループとしての実践力も養う。 ・この活動を知的財産とするためにポートフォリオを作成する。	2通	60				○	○		○		
	○		情報技術	・情報ツールとしてのパソコンの基本的な操作を身に付ける。 ・日常業務で使用が見込まれるWord、Excelといったofficeツールの基礎を学び、体裁の良いビジネス文書、チラシ、ポスターの作成方法を習得する。	2前	30				○	○			○	
合計				24科目	2,010単位時間(67単位)										

岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校の情報提供について

岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校では、学校教育法、専修学校設置基準、各種関係法令等を遵守して、健全な学校運営と教職員の資質の向上に取り組んでいます。

また、美容師養成施設として、美容業界が求める実践的職業教育を行い、業界が求める人材輩出に力を注いでおります。

本校の教育活動の取り組み等を情報提供することにより、産業界、所轄庁、学生、保護者、地域社会との更なる信頼関係の強化に努めてまいりたいと考えております。

情報提供する項目は次のとおりです。

1. 学校の概要
 - (1) 建学の精神、教育方針
 - (2) 本校の特色
 - (3) 理事長および校長名、所在地、連絡先等
 - (4) 学校の沿革
2. ビューティースタylist科の教育内容
 - (1) 入学者に関する受け入れ方針・収容定員・在籍数
 - (2) カリキュラム
 - (3) 時間割
 - (4) 進級・卒業の要件等
 - (5) 学習の成果として取得を目指す資格
 - (6) 資格取得、検定試験合格実績
 - (7) 卒業者数、卒業後の進路
3. 組織及び教職員の状況
 - (1) 学校の組織図
 - (2) 教職員数
 - (3) 教員別担当科目
4. キャリア教育・実践的職業教育
 - (1) キャリア教育への取り組み状況
 - (2) 実習・実技等の取り組み状況
5. 様々な教育活動・教育環境
 - (1) 学校行事への取り組み
6. 学生の生活支援
 - (1) 学生支援への取り組み状況
7. 学生納付金・就学支援
 - (1) 学生納付金の取り扱い(金額・納入時期等)
 - (2) 奨学金、授業料減免等の経済的支援措置
8. 学校の財務状況
9. 学校自己点検・評価、学校関係者評価

平成30年5月1日

学校法人岩谷学園
岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校

1. 学校の概要

(1) 建学の精神、教育方針

【建学の精神】

わが学園は、教育を通して「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする

【教育方針】

- ・美と健康と癒しをテーマに、感性とロジックを融合させた教育を展開します。
- ・アーティストックでビジネスマインドをもった美容師、ネイリスト、メイクアップアーティスト、エステティシャンを育成します。
- ・職業訓練学校の原点に立ち戻り、就職率を高め、同時に就職後の定着率の高い人材の育成に努めます。

(2) 本校の特色

- ①仕事につながる幅広い専門教科
- ②美容師国家資格合格保証制度
- ③将来の独立開業も視野に入れたビジネス科目や情報科目の導入
- ④学生の店で在学中にサロン運営を体験

(3) 理事長および校長名、所在地、連絡先等

学校法人岩谷学園理事長岩谷大介
岩谷学園アーティストックB横浜美容専門学校校長鈴木政信

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼 1-38-13
TEL:045-290-7090 FAX:045-290-7091
e-mail: abinfo@icb.ac.jp
https://www.artisticb.ac.jp

(4) 学校の沿革

年	沿革(教育連携・受託講習の実施等)
平成 16	岩谷学園アーティストックB専門学校設立 (神奈川県大井高等学校等の教育交流の実施「メイク・ネイル実習」)
平成 17	(総合学科高等学校夏期公開講座に参加講演「メイク・エステ実習」) (横浜市鶴見区寺尾地区センターとの連携講座「親子のネイルアート教室」) (横浜市緑区白山地区センターとの連携講座「おしゃれ講座:お肌のお手入れ」) (神奈川県立藤沢総合高等学校との教育交流の実施「メイク・ネイル・ヘア実習」) (高木女子高等学校との教育交流の実施「ネイルケアとネイルアート」) (神奈川県大井高等学校等の教育交流の実施「メイク・ネイル実習」)
平成 18	木下ユミ・メイクアップ&ネイルアトリエとの技術顧問契約締結 (神奈川県立舞岡高等学校との教育交流の実施「ビジネスコミュニケーション体験」) (神奈川県立川崎高等学校と教育交流の調印「ヘア・メイク、ネイル、エステ講座」を実施) 神奈川総合産業高等学校との教育連携選択講座の講師受託 神奈川県高校生ファッションフェスティバルでのヘア・メイク協賛 (神奈川県立鶴見総合高等学校との教育交流の実施「ハンドマッサージ講座」) (横浜学園高等学校との教育交流の実施「簡単ケア&アート」) (横浜国立大学十日市場中学校との教育交流の実施「ネイル・ヘア実習」)

年	沿革(教育連携・受託講習の実施等)
平成 19	(神奈川県立川崎高等学校、横浜桜陽高等学校、厚木清南高等学校3校との教育連携実施「ヘア・メイク、ネイル、エステ講座」) 神奈川県立川崎高等学校教員向け「ビジネスマナー講座」実施 (神奈川県立川崎高等学校との教育連携実施「電話・訪問におけるマナー講座」) (神奈川県立厚木清南高等学校定時制出前授業の実施「Happy マナー実践講座」) (神奈川県立鶴見総合高等学校との教育交流の実施「ヘア実習」) (横浜市立十日市場中学校との教育交流の実施「ネイル・ヘア実習」) (神奈川県立総合産業高等学校出前授業の実施)
平成 20	シニアの学びと交流のサロン「粋生倶楽部」開設 (神奈川県立川崎高等学校、横浜桜陽高等学校、厚木清南高等学校、横浜修悠館高等学校4校との教育連携実施「ヘア・メイク、ネイル、エステ講座」)
平成 24	新校舎建設工事着工 (神奈川県立川崎高等学校、横浜桜陽高等学校、厚木清南高等学校、横浜修悠館高等学校4校との教育連携実施「ヘア・メイク、ネイル、エステ講座」)
平成 25	新校舎落成 校名を「岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校」に変更 新校長就任 (神奈川県立川崎高等学校、横浜桜陽高等学校、厚木清南高等学校、横浜修悠館高等学校4校との教育連携実施「ヘア・メイク、ネイル、エステ講座」)
平成 26	(神奈川県立川崎高等学校、横浜桜陽高等学校、厚木清南高等学校、横浜修悠館高等学校4校との教育連携実施「ヘア・メイク、ネイル、エステ講座」) (学校法人松徳学園東京ファッション専門学校卒業制作ファッションショーにおけるヘア・メイクの協力)
平成 27	(神奈川県立川崎高等学校、横浜桜陽高等学校、厚木清南高等学校、横浜修悠館高等学校4校との教育連携実施「ヘア・メイク、ネイル、エステ講座」) (学校法人松徳学園東京ファッション専門学校卒業制作ファッションショーにおけるヘア・メイクの協力)
平成 28	(神奈川県立川崎高等学校、横浜桜陽高等学校、厚木清南高等学校、横浜修悠館高等学校4校との教育連携実施「ヘア・メイク、ネイル、エステ講座」) (学校法人松徳学園東京ファッション専門学校卒業制作ファッションショーにおけるヘア・メイクの協力)
平成 29	(神奈川県立川崎高等学校、横浜桜陽高等学校、厚木清南高等学校、横浜修悠館高等学校4校との教育連携実施「ヘア・メイク、ネイル、エステ講座」) (学校法人松徳学園東京ファッション専門学校卒業制作ファッションショーにおけるヘア・メイクの協力) (学校法人トラベルジャーナル学園 東京ブライダル専門学校 ブライダル科のヘア・メイク授業への協力) (学校法人織田学園 織田ファッション専門学校 スタイリスト科のヘア・メイク授業への協力) (学校法人戸板学園 戸板女子短期大学 服飾芸術科のヘア・メイク授業への協力)

2. ビューティースタylist科の教育内容

(1) 入学者に関する受け入れ方針・収容定員・在籍数

(ア) 入学者の受け入れ方針

本校が第一志望で、美容に関しての明確な目的意識を持ち、本校の教育や学生生活を理解した上で勉学意欲のあるもの。
また、勉強内容を十分理解できる学力を有するもの。

(イ) 収容定員

課程名	衛生専門課程	
学科名	ビューティースタylist科	
昼夜の別	昼間制	
入学定員	40名	
収容定員	80名	
在籍数(平成30年5月1日現在)	1年生	22名
	2年生	35名

(2) カリキュラム

【平成29年度入学生】

科目名	配当年次	必選の別	年間授業時数
関係法規・制度	1年次	必	30
衛生管理Ⅰ	1年次	必	30
美容保健Ⅰ・Ⅱ	1年次	必	60
美容の物理・化学Ⅰ	1年次	必	30
美容文化論Ⅰ・Ⅱ	1年次	必	60
美容技術理論Ⅰ・Ⅱ	1年次	必	60
美容運営管理Ⅰ・Ⅱ	1年次	必	60
美容実習Ⅰ・Ⅱ	1年次	必	360
情報技術Ⅰ・Ⅱ	1年次	必選	60
芸術Ⅰ・Ⅱ	1年次	必選	60
ビジネス実践Ⅰ・Ⅱ	1年次	必選	60
高度美容技術Ⅰ・Ⅱ	1年次	必選	90
美容総合運営Ⅰ・Ⅱ	1年次	必選	60
衛生管理Ⅱ・Ⅲ	2年次	必	60
美容保健Ⅲ・Ⅳ	2年次	必	60
美容の物理・化学Ⅱ・Ⅲ	2年次	必	60
美容文化論Ⅲ	2年次	必	30
美容技術理論Ⅲ・Ⅳ	2年次	必	60
美容実習Ⅲ・Ⅳ	2年次	必	450
ビジネス実践Ⅲ・Ⅳ	2年次	必選	60
高度美容技術Ⅲ・Ⅳ	2年次	必選	120
着付け実習	2年次	必選	30
美容総合運営Ⅲ・Ⅳ	2年次	必選	60

※卒業に必要な総授業時数は、2,010時間

【平成 30 年度入学生】

科目名	配当年次	必選の別	年間授業時数
関係法規・制度Ⅰ	1年次	必	20
衛生管理Ⅰ・Ⅱ	1年次	必	50
保健Ⅰ・Ⅱ	1年次	必	50
香粧品化学Ⅰ	1年次	必	40
文化論Ⅰ	1年次	必	40
運営管理Ⅰ	1年次	必	20
美容技術理論Ⅰ・Ⅱ	1年次	必	90
美容実習Ⅰ・Ⅱ	1年次	必	390
芸術Ⅰ・Ⅱ	1年次	選	60
ビジネス実践Ⅰ・Ⅱ	1年次	選	60
高度美容技術Ⅰ・Ⅱ	1年次	選	70
美容総合運営Ⅰ・Ⅱ	1年次	選	60
関係法規・制度Ⅱ	2年次	必	10
衛生管理Ⅲ・Ⅳ	2年次	必	40
保健Ⅲ・Ⅳ	2年次	必	40
香粧品化学Ⅱ	2年次	必	20
文化論Ⅱ	2年次	必	20
運営管理Ⅱ	2年次	必	10
美容技術理論Ⅲ・Ⅳ	2年次	必	60
美容実習Ⅲ・Ⅳ	2年次	必	510
ビジネス実践Ⅲ	2年次	選	30
高度美容技術Ⅲ・Ⅳ	2年次	選	230
美容総合運営Ⅲ・Ⅳ	2年次	選	60
情報技術	2年次	選	30

※卒業に必要な総授業時数は、2,010 時間

(3)時間割

平成30年度 前期時間割(1年次)

曜日	コース	時間								
		9:00~9:10	9:10~10:00	10:00~10:50	11:00~11:50	11:50~12:40	13:20~14:10	14:10~15:00	15:10~16:00	16:00~16:20
月	エステ ネイル メイク	HR	芸術 I (7-201)		メイク実習 I (7-201)		メイク実習 I (7-201)		掃除 HR	
	美容師	HR	美容技術理論 I (7-601)		芸術 I (7-601)		高度美容技術 I (7-601)		美容総合運営 I (7-601)	掃除 HR
火	エステ ネイル メイク	HR	エステ実習 I (7-501)						掃除 HR	
	美容師	HR	保健 I (7-601)		衛生管理 I (7-601)		美容実習 I (7-601)		掃除 HR	
水	エステ ネイル メイク	HR	美容総合実習 I (7-201)		着付け実習 (7-202)		ビジネス実践 I (7-201)		掃除 HR	
	美容師	HR	美容実習 I (7-601)		美容実習 I (7-601)		文化論 I (7-601)		文化論 I 美容総合運営 I (7-601)	掃除 HR
木	エステ ネイル メイク	HR	皮膚生理学 I (7-201)		衛生学 I (7-201)		トータル美容理論 I (7-201)		掃除 LHR	
	美容師	HR	美容技術理論 I (7-601)		美容実習 I (7-601)		美容実習 I (7-601)		掃除 HR	
金	エステ ネイル メイク	HR	ネイル実習 I (7-201)						掃除 HR	
	美容師	HR	ビジネス実践 I (7-601)		美容実習 I (7-601)		美容実習 I (7-601)		掃除 HR	

平成30年度 前期時間割(2年次)

曜日	コース	時間								
		9:00~9:10	1	2	3	4	5	6	7	8
		9:10~10:00	10:00~10:50	11:00~11:50	11:50~12:40	13:20~14:10	14:10~15:00	15:10~16:00	16:00~16:50	
月	エステ	HR	エステ実習Ⅲ (7-501)					ショップ実習Ⅰ 15:30~17:30 (7-101・501)		
	ネイルメイク		メイク実習Ⅲ (7-302)	メイク実習Ⅲ (7-302)						
	美容師	HR	ビジネス実践Ⅲ (7-301)	高度美容技術Ⅲ (7-301)	美容実習Ⅲ (7-301)					
火	エステ	HR			ビジネス実践Ⅲ (7-303)	美容総合実習Ⅲ (7-303)		ショップ実習Ⅰ 15:30~17:30 (7-101・501)		
	ネイルメイク									
	美容師	HR	衛生管理Ⅱ (7-301)	美容保健Ⅲ (7-301)	高度美容技術Ⅲ (7-301)		美容総合運営Ⅲ (7-301)			
水	エステ	HR	エステ実習Ⅲ (7-501)					ショップ実習Ⅰ 15:30~17:30 (7-101・501)		
	ネイルメイク		ネイル実習Ⅲ (7-302)							
	美容師	HR	美容実習Ⅲ (7-301)	美容文化論Ⅲ (7-301)	着付け実習 (7-202)					
木	エステ	HR	エステ実習Ⅲ (7-501)			エステ実習Ⅲ (7-501)		ショップ実習Ⅰ 15:30~17:30 (7-101・501)		
	ネイルメイク		ネイル実習Ⅲ (7-302)							
	美容師	HR	美容の物理・化学Ⅱ (7-301)	高度美容技術Ⅲ (7-301)	美容実習Ⅲ (7-301)		美容総合運営Ⅲ (7-301)			
金	エステ	HR	化粧品学 (7-303)		芸術Ⅲ (7-303)	情報技術Ⅱ (7-303)		ショップ実習Ⅰ 15:30~17:30 (7-101・501)		
	ネイルメイク									
	美容師	HR	美容技術理論Ⅲ (7-301)	美容実習Ⅲ (7-301)	美容実習Ⅲ (7-301)					

(4)進級・卒業の要件等

(ア)成績の評価方法

期末試験以外にも、随時了解試験が行われ、最終的な評価点は期末試験の結果、平常の了解試験、授業態度、出席状況等を考慮して判定されます。

成績評価の基準は、科目ごとの目標レベルの到達度で、この到達度に応じて「秀」「優」「良」「可」「不可」の5段階で評価します。

「可」以上の評価を得られれば、その科目の単位取得となります。

採点	評価
100～90点	秀
89～80点	優
79～70点	良
69～60点	可
59点以下	不可

なお、科目ごとに出欠席を判定し、20%を超える欠課がある場合には自動的に「不可」となり単位を取得できません。

(イ)進級・卒業の要件

【卒業時】ビューティースタylist科 2,010 時間

卒業時に各本科で定める卒業要件の全てを満たしていない場合には、卒業できず、その学年を再履修することになります。

【進級時】ビューティースタylist科 1,020 時間(平成 29 年度入学生)

950 時間(平成 30 年度入学生)

進級に必要な時間数を履修していない場合、1 年次を再履修することになります。

(5) 学習の成果として取得を目指す資格

資格・検定名	主催団体等
美容師国家資格	一般社団法人理容師美容師試験研修センター
JNEC ネイリスト技能検定3級	公益財団法人日本ネイリスト検定試験センター
色彩活用パーソナルカラー検定3級	一般社団法人日本カラーコーディネーター協会
美肌検定	一般社団法人日本エステティック協会
パーマ検定	一般社団法人ウェーブジャパン
ビジネス能力検定3級	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団

(6) 資格取得、検定試験合格実績(平成 29 年度)

資格・検定試験名	受験者数	合格者数	合格率(%)
美容師国家試験	14	13	92.9
ネイリスト技能検定試験3級	9	9	100
パーソナルカラリスト検定3級	35	24	68.5
パーマ検定	18	16	88.8
ビジネス能力検定3級	7	5	71.4

(7) 卒業者数、卒業後の進路(平成 29 年度)

(ア)平成 29 年度卒業者数 14 名

(イ)平成 29 年度進路状況就職 13 名(92.9%)

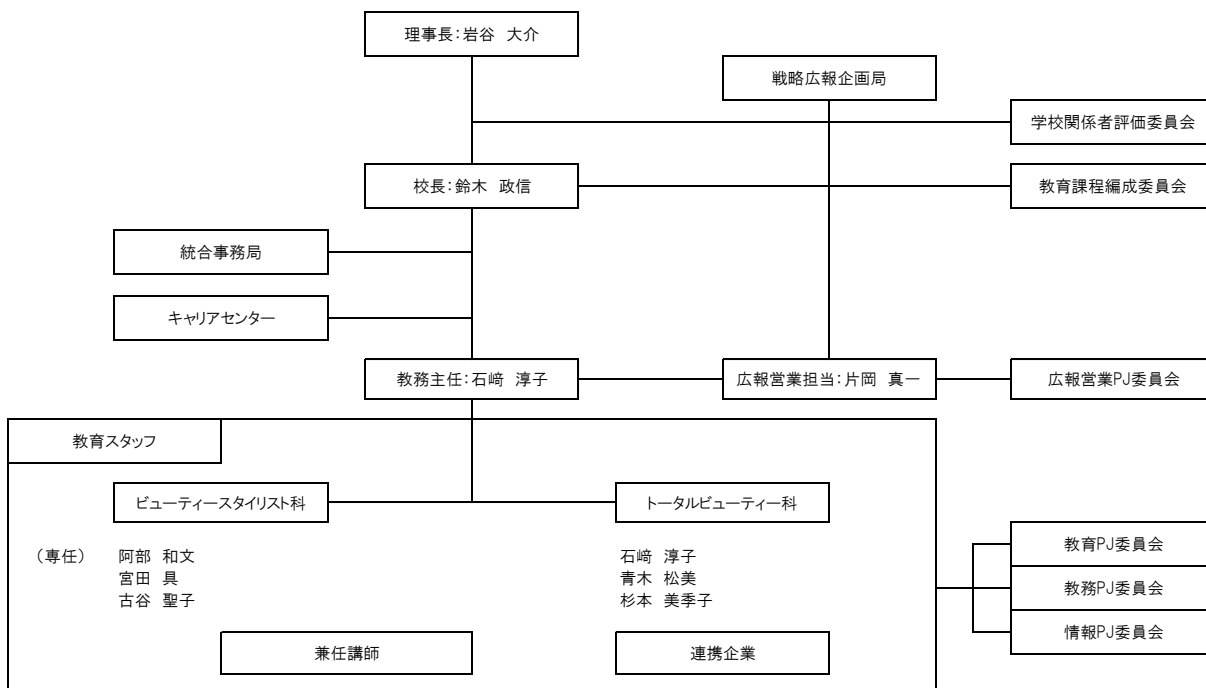
(ウ)平成 29 年度主な就職先

Neolive/ジャストビューティ株式会社/有限会社チャンネル/有限会社プロス/有限会社リンクス/
株式会社 3H/株式会社 bless/株式会社セレーネ/株式会社ハピネス/株式会社ビーイーエフ/
株式会社ラ・ブランシェ

3. 組織及び教職員の状況

(1) 学校の組織図

岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校 2018年度組織図



(2) ビューティースタylist科教員数

職名	人数
校長	1
専任教員	3
兼任教員	9

(3) 教員別担当科目 *一部担当科目が変更する場合があります。

教員名	平成 30 年度入学生科目	平成 29 年度入学生科目
宮田	美容実習 I	ビジネス実践Ⅲ・Ⅳ／高度美容技術Ⅲ・Ⅳ ／美容総合運営Ⅲ・Ⅳ／美容実習Ⅲ・Ⅳ
阿部	美容総合運営 I / 美容実習 I・II / ビジネス実践 I・II	美容実習Ⅲ・Ⅳ／高度美容技術Ⅳ
古谷	美容技術理論 I・II / 美容総合運営 II / 美容実習 II	美容技術理論Ⅲ・Ⅳ／着付け実習／美容実習Ⅲ・Ⅳ
石崎	高度美容技術 I	
松本	保健 I・II	美容保健Ⅲ・Ⅳ
福田	化粧品化学 I	美容の物理・化学Ⅱ・Ⅲ
岩崎		高度美容技術Ⅲ
川尻	衛生管理 I・II	衛生管理Ⅱ・Ⅲ
大槻	文化論 I	美容文化論Ⅲ
加藤	関係法規・制度 I	
伊東	芸術 I・II	
川村	運営管理 I	
宇田川	高度美容技術 II	

4. キャリア教育・実践的職業教育

(1) キャリア教育への取り組み状況

本校では、「ビジネス実践Ⅰ～ビジネス実践Ⅳ」の科目の中で、以下の方針に基づいて講義等を行っています。その実施にあたっては、キャリアセンター及び提携企業等連携指導も行われています。

- ① キャリアデザイン(学生が自らのキャリアプランを作成する)
- ② 働く意義について考える
- ③ 職業理解を深めるための業界講演
- ④ 提携企業先での職場実習(インターンシップ)
- ⑤ 応募書類の作成指導
- ⑥ 就職情報の収集方法指導
- ⑦ 職業人に必要な労働関係の知識の習得指導
- ⑧ 面接対策
- ⑨ 校内企業説明会の実施
- ⑩ 校外合同説明会の参加指導

(2) 実習・実技等の取り組み状況

本校では、美容の専門学校として、特に実習授業に力を注いでおり、平成 25 年度より以下の企業と教育連携を行い、最新の美容技術等の直接的指導を行っていただいております。

< 主な企業先と科目名 >

授業科目名	連携企業名
ビジネス実践Ⅱ	有限会社リンクス／株式会社ケンジグループ他
高度美容技術Ⅰ・Ⅱ	アミノ株式会社／株式会社きくや美粧堂
高度美容技術Ⅰ・Ⅱ	株式会社ラ・ボーテ・アクアボン
高度美容技術Ⅰ・Ⅱ	有限会社ゆき美容室
高度美容技術Ⅰ・Ⅱ	株式会社きくや美粧堂／株式会社内海他
着付け実習	有限会社桜和商事

5. 様々な教育活動・教育環境

(1) 学校行事への取り組み【平成 29 年度】(ビューティースタylist科)

行事名	実施日	行事の概要	学年
1年生ガイダンス	4月4日 5日	教育目標確認、学校規則やカリキュラム説明	1
入学式	4月6日	新入生受入	1
避難訓練	4月14日	一時避難場所までの避難経路の確認	1・2
新入生オリエンテーション	4月20日 21日	職業意識の涵養とビジネススキルアップに向けた研修、クラス目標設定	1
健康診断	5月12日	健康診断	1・2
ビューティーワールドジャパン	5月15日	エステ、ネイル、メイク、ヘアの新商品等の情報収集及びパフォーマンスステージの見学	1・2
DANKS ヘアショー	5月17日	都内及び横浜近郊の大手サロンの共同体によるヘアショーと就職フェア	1・2
芸術鑑賞会	7月5日	劇団四季「オペラ座の怪人」	1・2
全国理容美容技術大会関東大会	7月20日	関東地区選抜選手で、ワインディング、カットの競技に参加	1・2
新井唯夫ヘアショー	9月5日	プロの技術を直接学ぶ機会となるショーの見学	1・2
学園祭	9月16日	ビューティープラザ(サロン営業)運営とヘアメイクショー実施	1・2
1年生研修(後期)	9月28日	後期授業内容確認および就職活動と資格取得に関する説明	1
2年生研修(後期)	9月29日	卒業までの確認、社会人になる前の心構えと上級資格取得に関する説明	2
スポーツ大会	10月24日	全学年・全クラスでチーム編成し、スポーツ(ボウリング)を通して親睦を深める	1・2
作品発表会	12月1日	「NATURE」～本質的創造～をテーマに7号館ホールにて実施	1・2
模擬面接授業	1月16日	企業にも参加いただき、本格的な就職活動に向け実施	1
インターンシップ	1月29日～ 2月2日	美容サロンでの実践実習	1
校内企業セミナー	3月16日	1年生向け ※参加企業8社	1
卒業式・謝恩会	3月16日	卒業証書授与・各賞授与	2
2年生ガイダンス	3月28日	カリキュラム内容確認および就職と資格取得に関する説明	新2

6. 学生の生活支援

(1) 学生支援への取り組み状況

【1】アパート・学生寮の紹介

遠隔地から入学する学生に対し、安心・安全に学校生活を送れるようにアパート、マンション、提携学生寮等の紹介を行っている。

1) 学生寮の提携先

- ① 株式会社共立メンテナンス
- ② 橘・学生会館

2) アパート・マンション仲介業者

- ① 株式会社ミニミニ神奈川
- ② リーヴライフウエンティーンワン
- ③ エムズエステート他

【2】きめ細かい学生指導体制

- ① 担任制によるきめ細かい学生指導を実施しています。
- ② 定期的な個人面談とカルテ化を実施しています。
- ③ 問題が発生した場合、担任による個別面談による適切なアドバイスと、教員全体でその学生をサポートする体制を実現しています。

【3】学費サポート

① さまざまな学費軽減プランを設定

・特待生制度、指定校推薦制度、AO入学、チャレンジ自己推薦制度、家族入学奨学制度等による学費軽減プランを用意し、入学アドバイザーとの面談により受験生に最適プランを提案しています。

② 学費納入サポート

・分割分納払い及び教育ローンを活用した学費納入方法を複数設定しています。万一、支払に困った場合は、担任を通して学費納金担当者と学生と一緒に、無理のない学費納入計画を作成し、学生が安心して授業に取り組める工夫をしています。

7. 学生納付金・就学支援

(1) 学生納付金の取り扱い(金額・納入時期等)

(ア) 学費等(平成 29 年度実績)

	入学金 (入学時)	授業料 (年額)	施設設備費 (年額)	合計
1年次	100,000 円	600,000 円	300,000 円	1,000,000 円
2年次	—	600,000 円	300,000 円	900,000 円

	教材費・その他の費用
1年次	442,000 円
2年次	340,000 円

- ①学費等は、合格通知日から2週間以内に学校指定銀行に納入
- ②学費の納付については、全納、分納のほか、希望により銀行引き落としなどの月払い制度もあり

(イ) 出願の種類と選考料

AO入学	15,000 円
指定校推薦入学	免除
学校推薦入学	15,000 円
自己推薦入学	15,000 円
一般入学	20,000 円
チャレンジ自己推薦	15,000 円

(2) 奨学金、授業料減免等の経済的支援措置

(ア) 「岩谷学園特待生制度」

合格すると「特待生」として2年間の学費が、全額から 20 万～5 万円まで合格区分に応じて減免する

(イ) 「指定校推薦入学」

高校等の推薦基準を満たし、指定校推薦で出願されると、1年次の授業料の一部(10 万円)と入学選考料(15,000 円)を減免する

(ウ) 「特別推薦入学」

神奈川県商業教育振興会の会員高校を対象に、本学入学希望者には「特別推薦枠」がある特別推薦で入学すると学費の減免がある

(エ) 「AO入試」

本校第一志望で、将来美容業界に就職したいなど目的意識や意欲を評価する制度
期間内にエントリーシートを提出し、合格内定を受けると、学費の減免(8 万円～3 万円)が受けられる

(オ) 高校卒業者(社会、大学・短大、フリーター)の「チャレンジ自己推薦入学」

高校等の既卒者で、将来美容業界を目指して意欲とやる気のある方を本校が支援する制度
選考結果合格すると2年間の授業料の一部(30 万円)が免除

(カ) 「家族入学奨学制度」

在校生・卒業生の親子、兄弟、姉妹などの進学者に対し、入学金 10 万円を免除する制度

8. 学校の財務状況

資金収支計算書

平成29年4月1日から

平成30年3月31日まで

法人名：学校法人 岩谷学園

区分名：岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校

(単位：円)

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	110,500,000	109,841,667	658,333
手数料収入	1,290,000	1,190,000	100,000
寄付金収入	0	0	0
補助金収入	10,112,830	10,619,000	△ 506,170
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	42,980,538	44,078,153	△ 1,097,615
受取利息・配当金収入	0	0	0
雑収入	479,000	477,794	1,206
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	123,117,000	125,780,780	△ 2,663,780
その他の収入	5,901,000	6,999,391	△ 1,098,391
資金収入調整勘定	△ 93,811,500	△ 111,556,698	17,745,198
前年度繰越支払資金	0	△ 47,156,571	47,156,571
収入の部合計	200,568,868	140,273,516	60,295,352

支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	66,061,498	66,299,087	△ 237,589
経費支出	61,663,024	60,706,524	956,500
借入金等利息支出	7,571,803	7,557,383	14,420
借入金等返済支出	63,800,000	63,800,000	0
施設関係支出	0	0	0
設備関係支出	351,700	173,556	178,144
資産運用支出	0	4,372,171	△ 4,372,171
その他の支出	17,671,571	13,962,910	3,708,661
(予備費)	0		0
資金支出調整勘定	0	△ 2,796,350	2,796,350
次年度繰越支払資金	△ 16,550,728	△ 73,801,765	57,251,037
支出の部合計	200,568,868	140,273,516	60,295,352

事業活動収支計算書

平成29年4月 1日から

平成30年3月31日まで

法人名：学校法人 岩谷学園

区分名：岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校

(単位：円)

教育活動収入の部	科目	予算	決算	差異
	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	110,500,000	109,841,667
	手数料	1,290,000	1,190,000	100,000
	寄付金	0	0	0
	経常費等補助金	9,112,830	10,619,000	△ 1,506,170
	付随事業収入	42,980,538	44,078,153	△ 1,097,615
	雑収入	479,000	477,794	1,206
	教育活動収入計	164,362,368	166,206,614	△ 1,844,246
教育活動支出の部	科目	予算	決算	差異
	事業活動支出の部	人件費	66,061,498	66,299,087
	経費	73,556,139	74,680,464	△ 1,124,325
	徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出計	139,617,637	140,979,551	△ 1,361,914
	教育活動収支差額	24,744,731	25,227,063	△ 482,332
教育活動収入の部	科目	予算	決算	差異
	事業活動収入の部	受取利息・配当金	0	0
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	0	0	0
教育活動収入の部	科目	予算	決算	差異
	事業活動収入の部	借入金等利息	7,571,803	7,557,383
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外支出計	7,571,803	7,557,383	14,420
	教育活動外収支差額	△ 7,571,803	△ 7,557,383	△ 14,420
経常収支差額		17,172,928	17,669,680	△ 496,752
特別収入の部	科目	予算	決算	差異
	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0
	その他の特別収入	0	0	0
	特別収入計	0	0	0
特別支出の部	科目	予算	決算	差異
	事業活動収入の部	資産処分差額	0	0
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	0	0	0
	特別収支差額	0	0	0
〔予備費〕		0		0
基本金組入前当年度収支差額		17,172,928	17,669,680	△ 496,752
基本金組入額合計		0	△ 64,147,112	64,147,112
当年度収支差額		17,172,928	△ 46,477,432	63,650,360
前年度繰越収支差額		0	△ 395,609,084	395,609,084
基本金取崩額		0	1,740,852	△ 1,740,852
翌年度繰越収支差額		17,172,928	△ 440,345,664	457,518,592
(参考)				
事業活動収入計		164,362,368	166,206,614	△ 1,844,246
事業活動支出計		147,189,440	148,536,934	△ 1,347,494

9. 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価

専修学校における学校評価ガイドラインに基づき、平成 29 年度学校自己点検・評価及び関係者評価について公開しています。

学校法人岩谷学園ホームページ(<https://www.iwatani.ac.jp/info/img/hyouka.pdf>)

岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校では、学校法人岩谷学園の情報提供指針に基づいて、本校の情報を提供しています。

<問い合わせ先>

学校法人岩谷学園

〒220-2203 神奈川県横浜市西区平沼 1-38-19 TEL045-321-4414

統合事務局 部長 白石浩至

平成29年度「学校自己点検・評価」 結果報告

評価対象学校	岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校
評価対象学科	ビューティースタylist科
評価対象期間	平成29年4月1日～30年3月31日
評 価 日	平成30年5月1日

評価者	所 属
鈴木 政信	岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校
石崎 淳子	岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校
宮田 具	岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校
阿部 和文	岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校
古谷 聖子	岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校
青木 松美	岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校
杉本 美季子	岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校
白石 浩至	岩谷学園 本部・統合事務局

1. 学校の教育目標

本学園の建学の精神「わが学園は、教育を通して「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする」を基に、

①美と健康と癒しをテーマに、感性とロジックを融合させた教育を展開します
 ②アーティスティックでビジネスマインドをもった美容師、ネイリスト、メイクアップアーティスト、エステティシャンを育成します
 ③職業訓練学校の原点に立ち戻り、就職率を高め同時に就職後の定着率の高い人材育成に努めます

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①働く意識の涵養を目指したビジネス教育の充実と自己啓発の促進
- ②教育ストーリーに沿った楽しい教育の実現と在学生の退学率の低下
- ③早期独立を目指すサロン実習及モデル実習
- ④授業カリキュラムの見直し及び産学連携教育の強化

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

委員の評価

A

評 価 項 目
・学校の理念、目的、育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)
・学校における職業教育の特色は何か
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
・学校の理念、目的、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

①課題

- ・業界と連携できる関係を維持し、授業内容にいかに関与させ、その改善に努められるか
- ・職業教育の特徴作り
- ・将来構想の再構築(軌道修正)
- ・職業教育の実践の場の確保・増大

②今後の改善方策

- ・個々の職員が社会動向に目を向け、教育内容について定期的に見直し・提案・検討していく
- ・授業内のシミュレーションを増やし、学生が実践に近い環境で学べるよう工夫する
- ・社会のニーズを満たすカリキュラム(育成する人材像)であるか、見直しを行う

③特記事項

- ・特になし

(2)学校運営

委員の評価

A

評価項目

- ・目的に沿った運営方針が策定されているか
- ・運営方針に沿った事業計画が策定されている
- ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- ・人事、給与に関する規程等は整備されているか
- ・教務、財務等の組織整備などの意思決定システムは整備されているか
- ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか

①課題

- ・退学率を下げる努力の継続
- ・就労後の定着率アップのための教育への落とし込み

②今後の改善方策

・将来的なキャリアパスや将来像が描けるようなビジョンを明確にしていく

③特記事項

・特になし

(3)教育活動

委員の評価

A

評価項目
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明にされているのか
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか
・授業評価の実施・評価体制はあるか
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか
・職員の能力開発のための研修等が行われているか

①課題

- ・教員の外部研修参加や自己研鑽に対する計画的な対応
- ・研修に対する教員の意識の向上
- ・変則的な授業形態への対応(平成30年度からのカリキュラム変更による)
- ・インターンシップの実施形態の見直し

②今後の改善方策

- ・研修等に参加しやすい環境の提供
- ・教員の自発的な研修参加のための情報提供と意識づけ、実現のための仕組み作り
- ・変則的な授業形態における「もれ」が発生しないよう、教員間のフォロー体制をひく
- ・インターンシップ実施形態変更のための可能性を探り、ニーズに柔軟に対応できるよう検討していく

③特記事項

- ・継続した研修の実施や、各職員の自己啓発等、積極的な参加も必要

(4)学修成果

委員の評価

B

評価項目

- ・就職率の向上が図られているか
- ・資格取得率の向上が図られているか
- ・退学率の低減が図られているか
- ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- ・卒業生のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

①課題

- ・学生の価値観の変化による、サポート体制の見直し
- ・卒業生状況の把握
- ・時代に即した「生きる資格」の採択と受験意欲の喚起

②今後の改善方策

- ・技術面に加え、メンタル面のサポートの形を模索と教育への落とし込みを行い、退学率の低減および定着率の向上につなげる
- ・校友会との連携による、卒業生の情報収集の実現
- ・卒業生と連携をとれる授業の開発
- ・検定の見直しと受験喚起のための工夫

③特記事項

- ・特になし

(5) 学生支援

委員の評価

A

評価項目

- ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- ・学生相談に関する体制は整備されているか
- ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- ・課外活動に対する支援体制は整備されているか
- ・学生の生活環境への支援は行われているか
- ・保護者と適切に連携しているか
- ・卒業生への支援体制はあるか
- ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか

①課題

- ・卒業生支援の充実
- ・募集対象が広がったことによる受け入れ態勢と教育の整備(新卒と職業訓練生)

②今後の改善方策

- ・卒業生支援の必要性と方策の検討を定期的に行う(SNSの運用については、個人情報やプライバシー保護に十分に留意する)
- ・環境の異なる学生が入学することによる相乗効果を生み出す工夫と特に就職に向けての支援の見直し

③特記事項

- ・特になし

(6)教育環境

委員の評価

A

評価項目

- ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- ・防災に対する体制は整備されているか

①課題

- ・海外研修の実施
- ・インターンシップ受け入れ先の確保(メイク関係)
- ・Wi-Fi環境の活用事例の提供

②今後の改善方策

- ・研修内容や時期・場所など、実施に向けての再検討
- ・キャリアセンターと連携し、インターンシップ受け入れ先(メイク関係)の新規開拓を行う
- ・Wi-Fi活用事例の研究と検討

③特記事項

- ・特になし

(7)学生の受け入れ募集

委員の評価

A

評価項目

- ・学生募集活動は、適正に行われているか
- ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- ・学納金は妥当なものとなっているか

①課題

- ・安定した募集活動
- ・教育成果の効果的な伝え方

②今後の改善方策

- ・他部署と連携し、募集活動の強化をおこなう
- ・教育成果を効果的に伝えるためのツールの検討

③特記事項

- ・特になし

(8)財務

委員の評価

A

評価項目

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- ・財務について会計監査が適正に行われているか
- ・財務情報公開の体制整備はできているか

①課題

- ・マーケットの新規開拓、定員充足率の安定
- ・入学対象者の人口動態を想定した財務基盤の確保と安定化
- ・学生納付金以外での収入源確保

②今後の改善方策

- ・教員全体のコスト意識の向上
- ・退学者・除籍者を減らし、該当年度の財務基盤を安定化
- ・開業したサロンの維持安定と新たな付帯事業・収益事業の検討

③特記事項

- ・特になし

(9)法令等の遵守

委員の評価	A
-------	---

評価項目
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
・自己評価結果を公開しているか

①課題

- ・特になし

②今後の改善方策

- ・特になし

③特記事項

- ・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

委員の評価

A

評価項目

・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか

①課題

・ボランティア活動や地域貢献の機会の創出

②今後の改善方策

・ボランティア活動に関する情報の収集と提供

③特記事項

・特になし

(11)国際交流

委員の評価

C

評価項目

・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか

・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか

・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか

・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

①課題

・留学生の就労先の確保

・留学生の受け入れ及び管理体制の整備

②今後の改善方策

- ・留学生を多く受け入れている学園内の系列校と連携し、情報の収集を行う
- ・キャリアセンターと連携し、留学生の就労先の可能性を探る

③特記事項

- ・特になし

*委員の評価

各評価項目における委員の評価点(「適切:4」、「ほぼ適切:3」、「やや不適切:2」、「不適切:1」)
その平均値(小数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表示)を以下の基準により表示した。

評価	基準
A	4.0~3.6
B	3.5~3.1
C	3.0~2.6
D	2.5以下

平成 29 年度 岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校
学校関係者評価

開催日:平成 30 年 5 月 30 日 16:00~17:30

開催場所:7 号館 202 教室

評価期間:平成 29 年 4 月 1 日~平成 30 年 3 月 31 日

評価対象:ビューティースタylist科、トータルビューティー科(合同)

【学校関係者評価委員(ビューティースタylist科)】

岩田直樹 <関連業界企業>(有限会社プライド)

斉藤愛美 <卒業生>

遠藤順子 <保護者>

鈴木弘文 <地域住民>

【学校関係者評価委員(トータルビューティー科)】

森本チツ子 <関連業界企業>(株式会社ラ・ポータ・アクアボン)

我妻紗彩花 <卒業生>

大久保陽子 <保護者>

松本康二 <地域住民>

【学校担当者】

鈴木政信 <岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校校長>

石崎淳子 <岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校教務主任>

宮田具 <岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校教育MG>

阿部和文 <岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校教育MG>

古谷聖子 <岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校教育MG>

青木松美 <岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校教育MG>

杉本美季子 <岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校教育MG>

石井紀代子 <岩谷学園本部・統合事務局副部長>

【議題】

1. 専門学校の現状
2. 平成 29 年度の学校事業報告
 - ①授業カリキュラム
 - ②各種資格取得状況
 - ③就職状況
3. 「平成 29 年学校自己点検・評価」報告

議事進行

議題 1 の説明(鈴木校長)後、議題 2 について、担当者(教務主任:石崎)が項目ごとに説明し、各委員による意見交換・議論等を行いました。

その結果について以下のようにまとめ「平成 29 年度学校関係者評価」として報告いたします。

平成 29 年度 学校関係者評価報告書

学校法人岩谷学園
 岩谷学園アーティスティック B 横浜美容専門学校
 学校関係者評価委員会

評価対象: 岩谷学園アーティスティック B 横浜美容専門学校
 ビューティースタylist科およびトータルビューティ科
 評価期間: 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
 評価日: 平成 30 年 5 月 1 日

1. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見等

評価項目		評価
1	教育理念・目的・育成 成人材像等	前年度と同様、学校の教育理念、目的、育成する人材像は明確で、全教員によく周知・理解されている印象である。 ただ、少子高齢化社会や美容師資格試験の受験者数の減少など、社会情勢が変化していく中で、将来を見据えた対応(マーケットの動向、新しいカリキュラムの導入等)を早急に検討していく必要がある。
2	学校運営	学校運営に関しては前年度同様に全般的に順調であり、学園や学校内の各種規則、規程やマニュアル等について、学園内のプロジェクト委員会等を中心に策定、改訂等が継続的に実施されている。また、情報システムによる業務効率化も進めており、一定の成果を上げていると評価できる。 学生が自身の将来像をより具体的に描いていけるような工夫をしていくとともに、就職後のさらなる定着率 UP のための教育への落とし込みが今後の課題である。
3	教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成や「ストーリー性」を意識した教育の実施など、全般的にみて順調に推移していると判断できる。また、授業評価・授業アンケートおよび結果のフィードバックの継続的な実施により、PDCA サイクルが順調に機能していることも教育の質を高めている一因と評価できる。 産学連携授業としては、技術向上のみならず実際の業務に有益な実践的なカリキュラム(セミナーの実施等)が積極的に実施されており、学生が多方面から美容に関する興味・関心を持てるよう工夫されている点は大きいと評価に値する。 教員の資質向上のための外部研修参加や自己研鑽についても計画的に対応しているが、継続して対応していけるよう体制を整備していくことが必要である。 学生の気質・価値観の変化に伴い、インターンシップ受け入れ企業の拡充とともに、その実施形態についての検討が今後必要と思われる。

評価項目		評価
4	学修成果	<p>各種資格取得状況については、積極的にチャレンジする学生が多く、美容師国家資格100%の達成(2016年度入学生)をはじめ、上級資格取得者が増えており、良好な状態を維持していると判断できる。今後は社会情勢の変化をかんがみ、採択する検定の見直しをかけていく必要があると思われるが、引き続き意欲的に取り組んでいってほしいと思う。</p> <p>就職率常時100%達成を目指し、日ごろの指導については担任や授業担当者、キャリアセンターなど関連部門のスタッフの連携をより強化していくとともに、これからは離職率を限りなく低くすることが課題となってきた。現在カウンセリング有資格者(常勤者)が2名いることは、学生をサポートするうえで大きな強みにはなっているが、職業人としてのメンター教育にも今後力を入れていく必要がある。卒業数年経過後の動向については把握が難しく、卒業生の社会的な活躍状況を十分に評価できてはいない。今後、校友会やキャリアセンターとの連携を取りながら、動向把握のための仕組みづくりに取り組んでほしい。</p>
5	学生支援	<p>経済的な支援体制については、校友会の奨学金制度が整ったことで、充実してきているが、卒業生に対する支援については、十分でない判断する。卒業生対象のHP(SNS)を作成するなど、気軽に連絡が取れるような仕組みづくりを検討しているが、個人情報やプライバシー保護の観点から注意すべき点多々ある。その必要性をしっかりと議論して運用に移行してほしい。</p>
6	教育環境	<p>校舎内に整備されているWi-Fi環境を活用し、試験対策アプリなどの導入を行っている。今後もより活用できるよう、検討を進めてほしい。</p> <p>インターンシップについて:継続的に実施されているが、メイクのインターンシップ受け入れ先の確保が今後の課題となっている。</p> <p>海外研修について:研修先の治安悪化などがあり実施できていないが、研修内容や時期、場所など、学生の希望も参考にしつつ再度実施を検討してみてもどうか。</p> <p>防災について:校舎は新耐震基準をクリアしていること、災害用備蓄品の購入や避難訓練等も実施していることから、防災に対する対策は施されていると判断する。今後も引き続き対応をお願いしたい。</p>
7	学生の受け入れ募集	<p>学生募集活動は協定等を遵守し、公正に行われていると判断する。今年度は職業訓練生の受け入れも開始し、年齢の異なる学生が入学したことから、お互いに良い刺激を受けながら学生生活を送っているようである。</p> <p>少子高齢化や美容関係への就業意識の変化もあり、学生募集環境は変わらず厳しい状況ではあるが、職員全員が常に危機意識を持ち、学生受け入れの窓口である戦略広報企画局の職員とともに取り組んでいる様子がうかがえる。また、教育成果がより伝わるツール(主にSNS)の開発も常に検討、進められているので、今後の成果に期待したいところである。</p>
8	財務	<p>社会的に18歳人口の減少などが継続していることから、中長期的に財政は楽観できない状況が継続している。新しいマーケットの開拓、定員充足率の安定のための方策に早急に取り組む必要がある。</p> <p>開業したエステサロンについての運営状況は良好に推移しているため、新たな業務展開のためのビジネスモデルとして、財務基盤の安定化の一助となっていくのではないかと。</p> <p>教育の質を高めること、教員の資質向上を図ることで、退学者の低減が図れるよう、引き続き検討をお願いしたい。</p>

評価項目		評価
9	法令等の遵守	平成 29 年度も法令、規則、規程等に従い、コンプライアンスを重視し、日々業務を遂行していると判断できる。個人情報の保護、肖像権・著作権の取り扱いについては、教職員、学生を対象に研修や啓蒙活動を継続していることがわかる。学校自己点検・評価もHP上で公開しており、積極的に情報公開を行っている様子が窺える。
10	社会貢献・地域貢献	学校は地域に根差したものでなければならず、ゆえに地域貢献・社会貢献は学校が担う社会的使命ともいえる普遍的なものである。これは岩谷学園の建学の精神に相通ずるものである。一部ボランティア等がおこなわれていることは評価できるが、まだ十分といえるレベルではない。教職員や学生それぞれが高い意識を持ち、学校として、教職員として、学生として、それぞれの立場で何ができるか、また学校の施設・設備を利用して何ができるかを、みんなで話し合い前に進んで欲しい。
11	国際交流	学園全体としては多くの留学生を受け入れているが、現在 AB 校では受け入れがない。日本で美容師としての就労は極めて難しいが、社会変化の兆しはあるようである。母国での学歴が大学卒であるなどの条件によっては、美容業界で就労できる可能性が十分にあるため、トータルビューティー科で受け入れ態勢を整え、募集を開始したところである。

2. 総評

学校自己点検・評価の結果を基に、学校関係者評価委員会として、岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校
学校の学校評価は概ね「合格」と判断・評価する。

少子高齢化が進んでおり、18 歳人口がますます減少しているなかで、入学から就職へ向けて関係部署が連携して一貫した指導を行っていること、教育ストーリーの構築・見直し・更新を常に実施している様子が明確になっていることは高く評価できる。連携企業など外部からの情報を積極的に取り入れ、カリキュラムへの反映の模索も学校全体で取り組むことで、教育目標や理念の個々人への定着が実現していると思われる。

学生一人一人が目標をもって学生生活を送れるよう、また、就労後も継続して社会に貢献していけるよう、支援を継続して行ってほしい。

教育信条である「職業人教育」を進めるにあたり、ボランティア等の地域貢献・社会貢献を経験できるような体験も重要かと思う。どのような形で実現できるのか、さらに研究を重ねて形にしてほしい。そして、社会のニーズを的確にとらえ、社会が求める人材を育成する、専門学校としての使命を果たしていけることを期待する。